

事業実施報告

開催日	令和7年7月19日（土）～7月21日（月・祝）		
事業名	テンパーク・わくわくキャンプ ～楽しく学ぶ！科学×クッキング×テント泊～		
開催場所	国立岩手山青少年交流の家	参加人数	30名
対象	小学5・6年生		
関係機関名	滝沢市教育委員会、ビッグハウス菓子店		

状況報告 (事業の内容・事業の成果と課題について記載)

【事業の内容】

学校で学んだ知識や技能を活用しながら、野外炊事やテント泊などの体験活動を通して、家庭科や理科、算数など各教科の学びを深めるとともに、自分で考え学ぼうとする意欲を高めることを目的とし、2泊3日のキャンプを実施した。

1日目、アイスブレイクで交流を図った後、午後からキャンプ場で自分たちが宿泊するテントを設営した。初日の野外炊事（サマークッキングⅠ・学ぶ）では、栄養士の菅原亜紀子先生から、家庭科で学習する五大栄養素や食べ物のありがたさなどについて指導をいただき、カレーライス、焼きそば、豚汁の3コースから選択して夕食を作った。その夜、最終日に家族にふるまう料理を班で話し合い、栄養バランスや予算を考えながら買い物計画を立てた。

2日目、午前中の科学工作教室では、電気の流れや明かりのつき方等の実験を行った後、一人一つ懐中電灯のキットを組み立てた。午後はバスで地元のスーパーへ行き、1日目の夜に作った買い物計画をもとに実際に品物と値段を見ながら、予算内に収まるよう工夫して食材を購入した。2回目の野外炊事（サマークッキングⅡ・試す）では、家族にふるまうオリジナルメニューを試作した。入浴後、自分たちが作った懐中電灯を持って、夜の森のナイトハイクを楽しんだ。

3日目、朝からテントや寝袋を片付け、午前中から3回目の野外炊事（サマークッキングⅢ・ふるまう）を行った。迎えに来る家族にふるまう料理を、1・2日目の反省を生かし、盛り付けにもこだわりながら作った。完成した料理について話しながら、家族と会食することができた。

【成果】

事業に対する参加者の満足度は、「満足」「やや満足」を合わせて、94%であった。事前・事後アンケートの比較では、「先のことを考えて自分の計画を立てる」「実験や観察で新たな発見をすることに興味がある」等の項目で有意な得点の向上が見られた。保護者の事後アンケートからも「キャンプ後、包丁を使ってお手伝いをしたがるようになった」「今まで以上に積極的に料理をしたいと張り切っている」との声が多くあった。自分たちで献立を考え、買い物をし、料理を作るという体験をしたことにより、特に家庭科(料理)の面で、自分で考え学ぼうとする意欲が高まったと考えられる。12月の滝沢市の教職員研修会で本事業の取組を発表し、教育関係者に本事業の意義を伝えていく。

【課題】

・初日の野外炊事で、子どもたちがどんな料理を選択してもいいように食材を多めに準備したが、食品ロスが多くなった。食べ物のありがたさについて栄養士の先生から指導していただいたので、食材を有効に使えるよう工夫させると良かった。

・ボランティアの協力が欠かせない事業であるが、一部学生に子供への接し方や参加態度に課題が見られた。事前のオンラインミーティングは実施したが、社会教育活動実習のガイダンスやボランティア養成事業の段階からしっかりと指導する必要がある。

状況写真



科学工作教室



野菜を切る



テント設営



買い物



鉄板で焼く



作った料理をふるまう